

【会場・ロビー】 入場待ちの行列、頂戴したメッセージや監督作品ポスター、遺族寄贈の貴重な資料などを展示しました。



【トークショー・抽選会】撮影時のエピソードや相米監督にまつわるたくさんのお話が紹介され、お客様も大満足の様子でした。



【お墓参り】

相米監督の令兄 相米琢磨さんと関係者の皆様で相米慎二慰霊碑へ、相米監督の眠る墓前で静かに手を合わせました。



【交流会】

映画祭り終了後、「映画監督相米慎二を語りつくす会」が交流会を催し、関係者と一般参加者が親睦を深めました。



「監督との出会いが原点」

三浦友和さん思い出語る

田子

田子町ゆかりの映画監督の故相米慎二監督をしのぶ映画祭りが24日、同町のタフコピアンプラザで開かれた。6回目の今回は「台風クラブ」を上映。同作品に出演した俳優の三浦友和さん(67)がトークショーを行い、「監督との出会いが俳優の原点」など思い出を語った。

1985年公開の同作品 までの二枚目役とは異なる、は、中学3年の子どもたちが だらしのない教師役で、新たな主人公。学校を舞台に思春期の エネルギーや危うさを描いた。

上映後のトークショーで三浦さんは、当初は出演を断るつもりだったと述懐。周りを



相米慎二監督との思い出を語る三浦友和さん

その気にさせる相米監督の手柄を「究極の人垂らし」と愛情たつぷりに表現した。何度もしりとりを繰り返さないことで知られた相米監督。撮影中に「振り向いた姿が三浦友和なんだよ」と、独特の表現で型にはまった演技を指摘されたエピソードを明かし、「口には出さなかったが、俳優って面白いだろう」というのを教わった」と感謝した。

映画祭りは町主催。午前と午後の2部構成で、町内外から640人が訪れた。トークショーには同作品で助監督を務めた榎戸耕史監督(66)と富樫森監督(59)も登場した。相米監督は、父親が同町出身で、町内の墓に眠る。「セーラー服と機関銃」などの作品がヒット。2001年に肺がんのため53歳で死去した。(金澤一能)

田子ゆかり 故相米監督しのび映画祭り

相米監督作品「俳優の原点」

田子・映画祭り 友和さん思い出

田子町ゆかりの映画監督・故相米慎二さんの魅力を伝える「相米慎二監督映画祭り」が24日、町のタフコピアンプラザホールで開かれ、監督6作品目の「台風クラブ」(1985年)が上映された。出演した俳優

三浦友和さん(67)がトークショーのゲストとして登場。俳優の原点とも言える作品」と感慨深げに当時の振り返りを行った。

「台風クラブ」は、台風の接近をきっかけに日、の鬱屈した感情を爆発させる少年少女を描いた青春映画の傑作。それまでの二枚

目のイメージを覆し、だらしのない教師を演じた三浦さんにとって、大きな転機となった。

三浦さんが相米さんと出会ったのは32歳のとき。歌手の山口百恵さんと結婚後、仕事に恵まれない時期にオファーが寄せられたという。役柄に合わない」と

も、時間がたつにつれて見方が変わった」と予定調和で収まらない映画の魅力を紹介。「監督がいなければ(役者として)間違った方向に行っていたかもしれない」と亡き恩師との出会いに感謝していた。

「セーラー服と機関銃」など13作品を世に送り出した相米さんは2001年に53歳で生涯を閉じ、父の出身地・同町相米地区にある先祖代々の墓に眠る。祭りは町が主催し、今年で6回目を迎える。今回は午前と午後の部の特別2部構成で行われ、過去最高の約640人が駆け付けた。(松田啓志)



トークショーで相米監督との思い出を語る三浦さん

一度は断ろうと思ったものの「結局は丸め込まれた。(監督は)究極の人たらし」と来場者を笑わせた。作品のすごさと面白さが分かったのは、50歳を過ぎてからだという。「最初に見たときはあっけにとられたけれど